

納税者目線の 京都党 だから言える！

①新税導入への提案

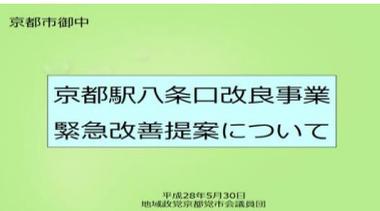
「なぜ我々の税金が観光ばかり使われるの？観光客のせいで渋滞してるぞ！」これが観光政策に対する市民の本音です。しかし、観光インフラはまだ不足しているのも事実です。けれども、観光のためのインフラ整備を市民の税金だけに頼るのも正直限界です。そこで、観光客にも一部負担頂く観光税の導入を宿泊税先進国イタリアでの調査も交え提案しました。欧州型の五つ星制を導入し、星の数に応じ課税、税込UP、観光政策の起爆剤になること請け合いです。(詳しくは京都党HPをご覧ください。)



納税者目線の 京都党 だから言える！

②八条口緊急改善提案！

京都駅八条口南側広場整備事業が完成目前を控えているにも関わらず一般乗降場が溢れ、身障者スペースは全く守られず、混乱が続いています。京都党では、GWから終日の現場調査を重ねデータを取り、緊急改善提案を行っています。観光客や市民にも優しいバランスの取れた八条口になるよう5月議会の委員会質疑に続き、党として京都市への政策提言、調査資料のプレスリリース、毎日放送のニュースの出演など様々な展開を続けております。(詳細は京都党HPをご覧ください。)



街頭での市政報告

不定期ですが、平日の朝8時から市政に対する想いや意見などをお話しています。見かけてくださったら、手を振ってのご声援などをいただくと嬉しいです！

【主な場所】
堀川今出川
千本丸太町
烏丸今出川
北野白梅町

など



元気モリモリ通信について

議員として何を訴えて活動しているかを広く皆様にお伝えするために、市政活動報告書である「元気モリモリ通信」を上京区にて全戸配布しております。質の向上のため、ご意見・ご感想を下記事務所までお寄せいただくと幸いです。ご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

TEL：075-366-6341
FAX：075-366-6342
mail: morikaren@kyoto-party.com

森かれん事務所

〒602-8384

京都市上京区紙屋川町1038-22



京都市会議員

森かれん

元気モリモリ通信 Vol.3

(市政活動報告書)

議会活動報告

- ◆二条城施設整備について
- ◆京都市焼却灰溶融施設について
- ◆コラム 都市油田発掘プロジェクト

納税者目線の京都党だから言える！

- ◇新税導入への提案
- ◇八条口緊急改善提案



若年層は本当に政治に無関心なのか？

これまで多くの方が「若者の投票率の低さは問題である」と訴えているにも関わらず、若者と言われる20～30代の人たちと積極的に交流や議論を交わしている政治家はほんの一握りです。私は政務調査の一部を自分の街とその未来を良くしたいと願う大学生にお手伝いいただいています。事務所に集う政治に関心のある学生だけではなく、一般の大学生や同世代であっても、京都市で行われている議論について丁寧にお話をすれば、おのずと市政に興味を持ってくれるようになります。若者と本気で対話することこそ政治への関心を高める一番の方法であると自負しています。

今や地方議員は「号泣議員」などの出現で、いい存在としては扱われません。けれども「自分の街の未来を考え、住民の皆さまの生活をよくするために最前線で仕事している」のが地方議員であり、本来市民に一番身近な存在です。これまで若年層が投票場に足を運ばなかったのは若者が興味を持つような議論が議会や地域でされていないからです。18歳選挙権導入を契機ととらえ、これからも能動的に若年層の世代とも関わりを持つことこそ若者の投票率向上につながると信じ、これからも活動してまいります。

森かれん

議会活動報告

5月20日に開会した5月議会。京都党市議団は体制を再構築し、望んだ最初の議会でした。経済、観光、総務、防災を担当する経済総務委員会に江村議員、教育、福祉、保健を担当する教育福祉委員会に大津議員、都市計画、建設を担当するまちづくり委員会に村山議員、文化、環境等を担当するくらし環境委員会に森が担当となりました。早速、焼却灰溶融炉施設の損害賠償訴訟案件(京都市が工事を遂行できなかった住友重機械工業を訴えている件)や京都駅八条口南口整備工事の改善要求などの審議を中心に取り組みました。また、全体としては民泊を巡る対応や文化庁京都移転を巡る補正予算が審議され、一方で凍結中だった高速道路3路線の廃止などが決定、恒例の副議長辞任に伴い曾我新副議長(公明)が選出されました。

また、新たに政務の取りまとめとして村山議員が市議団団長に復帰する運びとなりました。新生京都党市会議員団、一丸となって引き続き市政発展に尽くして参りたいと存じます。

約2億2800万円をかけておこなう二条城の施設整備とは？

二条城は江戸幕府の栄光と衰退を見守り続けた、歴史的にも非常に価値の高い文化財ですが、それを伝える案内板やパンフレットを読んでも、歴史的価値については今一つわかりません。特に外国人対応で用意されている英訳版のパンフレットには「江戸幕府」や「徳川慶喜」などの重要キーワードがそのままローマ字表記されています。そもそも日本の歴史を知っている前提でないと理解できない代物になっており、二条城の側が「事前に勉強してから来るべきだ」と言わんばかりの状況です。

5月の補正予算では、二条城のより一層の活用を図るためにすでに天井画の一部剥落や畳の老朽化が始まっている二の丸御殿等整備(約1億2200万円)と併せて、清流園のトイレ修繕や多言語化対応などのおもてなし機能強化(約1億600万円)を図ることによって文化財活用のモデルとなることを目指し、約2億2800万が計上されました。これらは二条城にとって大切な整備であります。これからますます多様化するニーズに対応するため、既存の「音声ガイド」の充実を図ることや歴史を体感できるイベントを実施するなどの提案を行いました。

- ◆音声ガイドの台数増加と内容面の充実
- ◆日本語を直訳したパンフレットの抜本的改善
- ◆二条城の歴史が体感できるイベントの実施 など

さらに、文化財の価値向上に対する取り組みは二条城だけで完結するのではなく、他の京都市保有の文化財(無鄰菴や岩倉具視幽棲旧宅など)についても良いところは積極的に取り入れるよう指摘をしました！

(2016年6月14日 くらし環境委員会 文化市民局への一般質問にて)



裁判に負ければ約56億円の負担!? 焼却灰溶融施設の行方

京都市は長年の懸念課題であった最終処分場の延命を図るべく、当時最先端技術として注目されていた「焼却灰溶融炉施設」を莫大な予算をかけて住友重工に工事させました。しかし、その工事期間中にトラブルを頻発させ、納期を3年越えても完成させることができなかったため契約解除、相手方に対し損害賠償を求めている裁判の判決はなんと**京都市の主張が棄却**されたのであります。



建物自体は完成しているものの、約100億円もの税金をかけて造られた建物は一度も使われないまま廃墟になる可能性もあることから、裁判長からは「完成始動しなければ、社会的経済上の損失が極めて大きい」との付言があり、和解を促されています。しかし、すでに京都市と住友重工とでは関係が決裂しています。さらに、この施設は特許技術が絡むため途中から他社に工事をさせることができません。もちろん、施設は完成していないため国からの補助金の返還余儀なくされ、負ければ総額約56億円の市の負担がのしかかります。そのため、全庁挙げて2審勝訴するよう付帯決議を提出しました。

2審勝訴とともに、今後の延命策についても対応を求める！



契約解除後も未だごみ最終処分場の延命については課題が残されたままです。この問題は市民に対し「ごみ袋有料化」というご負担をお願いしている主たる要因であるのみならず、現代社会における自治体の政治的課題であります。裁判への取り組みと並行して早急に手を打たなければなりませんし、今後の最終処分場の延命に関しては「ごみの2Rの推進」「最終処分場そのものの延命策」の両面から考える必要があることを賛成討論で発言させていただきました

コラム 都市油田発掘プロジェクト

持続可能なエネルギー社会を目指すべく、京都市では生ごみからエタノールとメタンガス、電気を作り出す最先端技術の実用化を目指し産官学連携で取り組みが進められました。

この技術は一般的に収集処理される廃棄物を化石燃料代替であるエタノールとメタンに変換できるだけでなく、バイオマスエネルギーを効率的に回収することが可能です。ごみを資源・エネルギーに変換する技術で、未来のクリーンな循環型社会に貢献する大注目のプロジェクトです。



都市油田発掘プロジェクトプラント